

Unce upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第39回

宇都宮高等農林学校



旧講堂。現在、改修工事が行われている。

宇都宮高等農林学校は、一九二二（大正十）年十月二十一日、勅令第四一〇号により官報をもって設置が公布された。農学科、林学科、農政経済学科からなる全国五番目の官立農業専門学校の誕生である。その背景には第一次世界大戦を契機とした国内経済の伸張と、入学志願者の急増、そして国民の高等教育に対する関心の高まりがあった。

一九一八年十二月の県議会決議を経て、平塚広義県知事および中橋文相にその旨の意見書・建議書が提出された。誘致に向けた文相宛の建議書には「仰ぎ希クハ閣下ガ栃木県ノ民意ヲ應納シ特ニ国家ノ費用ヲ以テ高等教育ニ適応セル学校ヲ本県ニ設置セラレントテ」の一節が見受けられ県民の熱い思いがうかがえる。

設置条件として建設費八十九万円の半額が県の負担とされ、設置の内示を受けた県議会では大正八年度（一九一九）から四年間、県費を支出しこれに充てることを決議した。しかし、そのすべては県内の篤志家の寄付によつて賄われ、校地が河内郡平石村（現宇都宮市峰）と同郡横川村（現宇都宮市横川地区）に決定すると、市民は用地買収や敷地の整理など開校へ協力。一九二二（大正十）年から校舎の建設工事が開始された。

設置公布を経て一九二三（大正十二）年四月十六日には、晴れて第一回の入学式が行われた。初代校長には元盛岡高等農林学校長・農学博士佐藤義道が就任。修業年限は三カ年だった。創立当時の校地面積は、校舎敷地だけでも二万九百十二坪（約三・六ヘクタール）、これに植物庭園、実験農場などを合わせると約六万八千坪（約二・二四ヘクタール）にも及ぶ。同校は一九四四（昭和十九）年四月、宇都宮農林専門学校と改称。戦後の教育改革を経て、四九（昭和二十四）年には新制宇都宮大学農学部へと発展を遂げた。最後の卒業式と開校式が行われたのは、五一（昭和二十六）年三月十五日のことである。



宇都宮高等農林学校本館と校歌の一節。右上は二荒山神社